

2026 年度 出題の意図

科目名：数学

試験問題は、高校数学のうち数学 I、数学 A（図形の性質・場合の数と確率）、数学 II、数学 B（数列）、数学 C（ベクトル）を出題範囲としており、大問 I（空欄補充）と大問 II（記述式）からなる。全体として、高校までに学ぶ数学について、バランスよく基本的な理解ができているかを確認するのが狙いである。

大問 I は 3 つの小問に分かれ、各小問は 3～5 個程度の空欄補充問題となっている。基本的には教科書の練習問題や章末問題が解ければ対応できる問題が中心であるが、本質的な理解ができているかを問うべく、典型問題とは見かけ上異なる形式で出題される場合や、一部に応用力を見る問題が含まれることもある。

大問 II は記述式で、いくつかの小問に分かれている。ここでは大問 I で問う数学的能力に加えて、解答を導く過程において、式変形や論理展開を正しく行えるか、適切な場合分けができるか、グラフや図を描けるか、基礎的な証明を構成することができるか、等の点について、あわせて確認することも意図している。